

(公財)神戸大学六甲台後援会だより

(48)

社会科学系5部局を強い絆として支えてきた六甲台後援会

本号は4月に発刊されますので新しく今月から準会員になれる法学部・経済学部・経営学部及びその3つの大学院研究科と国際協力研究科の新入生の皆さんのことを考えて、特に六甲台後援会の事についてご説明します。

思い出しますと、この事については、かつて本誌の第366号(2005年8月号)で詳しくご説明申し上げました。しかし、早いものであれからもう12年も経ちました。凌霄会員の皆さまは、以前にお読み頂いていると思いますが、随分年月も経ていきますので改めて記憶を新たにしておさねばと存じます。

12年前に日本の国立大学は法人化され、いわゆる「選択と集中」路線の下、運営費交付金が毎年1%ずつ削減され、各大学は、それぞれの能力に応じて外部資金を獲得しなければならぬようになっていきます。そのため、各国立大学とも懸命の努力を重ねている現在です。その典型的な例が東京大学です。以前、東京大学にはこうした資金調達を目的とした同窓会活動などはありませんでした。ところが、平成16年度の国立大学の法人化以降、その東京大学でも全国各地で基金獲得のための同窓会活動が行われるようになりました。

そうしたこともあって、つい最近の「中央公論」(2017年2月号)に掲載された東大五神真さんの説明によると、法人化以降、国からの交付金は123億円減少したとのこと。

しかし、さすがに東京大学です。付属病院でこの期間、収入が186億円増加しただけでなく、寄付金、各種補助金、受託研究などの外部資金が306億円増加したと述べておられます。

こうした傾向に恵まれているのは旧帝国大学などごく限られた大学だけです。残念ながら旧帝大とは違って自然科学系の研究所も無く、それもあって受託研究や各種補助金の獲得能力の大きい自然科学系教員の少ないのが神戸大学の場合、こうした外部資金の調達能力は限定されています。

もつとも、こうした法人化以降、資金調達が増大した大学でも、例えば前記「中央公論」に登場された東北大学の里見進学長やノーベル賞を受賞された東京大学の梶田隆章宇宙線研究所長も「選択と集中」の方針に基づく運営費交付金の人件費削減のために各大学とも、助教(以前の助手)を大幅に減らすことになり、ポストのない若手研究者が増加し、将来わが国の基礎研究は勿論、大学の研究開発能力の低下が生じる危険性が増大している指摘されているのは注目すべきことです。

ところで新制大学には、大きく分けると3つの成立の仕方があります。第一は、それまであった旧制大学のまま新制大学に変わったもので旧帝大や東京工業大学、一橋大学などの単科大学がそれです。第二は、私たちの神戸大学のようなもので、例えば、旧制大学としての神戸経済大学に旧制高等学校(姫路高等学校)や高等実業学校(御影と姫路の師範学校や神戸高等工業学校など)が一緒になったものです。第三は、旧制の高等学校や高等実業学校などが大学になったもの(例えば滋賀大学など)です。敗戦後の財政困難の時期でしたから、こうして成立

した新制大学は全体として国の財政的支援（保障）がきわめて不十分でした。因みに教員の在外研究だけでも取り上げてみましょう。

わが神戸商業大学（この名称は昭和19年神戸経済大学に変更されました）でも、年間2、3名は在外研究員として派遣されていきました。ところが、新制大学になると、先程の3つのタイプの大学によって在外研究員の割り当てにも格差が生まれ、法学部、経済学部、経営学部、経済経営研究所に加えて文理学部、教育学部、工学部から成る新制神戸大学全体で、在外研究員は、2名くらいしか派遣できない状態になってしまいました。

そこで、新制神戸大学の第2代学長に就任（昭和28年）された古林喜楽先生は、旧帝大に比べると格段の格差がある神戸大学の新制学部の充実と発展を図る色々な工夫をしようと努力されました。教育学部や工学部のように、高等実業学校としてかなり長い伝統を持つ学部では、同窓会活動もそれなりに維持されていますが、しかし、文理学部や教養課程のように、姫路や御影の師範学校など色々な組織の先生からつくられた学部や課程では、それぞれの卒業生も同窓会組織をつくるどころまでは進まず、どうしても格差が生まれ、大学一体化も難しい状況でした。その点、新制大学の3学部、1研究科となった神戸高等商業学校（神戸商業大学、神戸経済大学）が、明治40年度卒の第1回以来、実に綿綿たる凌霄会員を維持してきましたのとは大きな違いがありました。そこで古林先生は、蛸の足大学ともいわれて市内いくつかの場所に分散していた各学部を今の六甲台地区に集中するため、県・市・民間及び政府に働きかけ、そ

れを実現されるとともに、何よりも新制大学になってはじめて成立した学部の充実と先生方との交流に懸命の努力を重ねられました。

こうしたバックアップ体制の強化は学長としてもまた当該学部としても、当然の課題になりました。しかし、このままでいては旧制大学を基盤として新制化した上記の第一の大学との格差拡大を恐れる凌霄会員の要請に応じてそのための対策を図ろうともされました。その一つが、この六甲台後援会誕生のきっかけでした。

すなわちこのままでは、かつて、旧帝大にも経済学部が無かった時代に今の一橋大学の前身である東京高等商業学校に次ぐ、経済学・商学の最高学府として設立された神戸高等商業学校、その後も、今の一橋大学、大阪市立大学とともに3商大の一つとして活動してきた神戸大学の社会科学系学部・研究科がその存在意義を失うことになるという危機意識から、「学園の一層の飛躍、名実ともに世界の最高水準の学府として、わが国経済の発展のために多大な貢献をなし得ることを目的として」六甲台後援会が企画されたのです。

古林先生はこの趣旨を大先輩の永井幸太郎氏（明治42年卒日商社長）をはじめ次の方々に説明され、永井さんが会長となり、出光佐三（明治42年卒出光興産社長）、椿本説三（明治45年卒椿本チエイソ社長）、中村文夫（大正5年卒日本板硝子社長）、市川 忍（大正8年卒丸紅社長）、室賀国威（大正8年卒敷島紡績社長）、沖 豊治（大正10年卒兼松社長）、田中寛次（大正13年卒神戸新聞社社長）の皆さんが理事に就

任されました。

設立された後援会は昭和32年に募金活動を始めました。当時の記録によりますと、募金目標は、企業から1億円、個人から2千万円でした。個人を見ましても、永井会長の100万円をはじめ実に多くの人達が、醸金をしておられます。名簿を見ると大学教員も教授・助教授・助手など年齢職業相応に分担しております。企業からも積極的支援を受け、募金が始まった3年後には、目標を大きく超えて3億1,222万円に達しました。

当時はいわゆる戦後が終わり、まだ60年代にかけての高度成長の基盤づくりが始まったばかりの時でした。それを考えると、この六甲台後援会づくりのために先輩諸氏がいかに情熱的に打ち込んでこられたかを推測することが出来ます。

ところで、六甲台後援会は、先に述べた目的を達成するために、次の二つの事業を行うことにしました。①学問の国際交流では、(イ)教官の在外研究調査活動の支援、(ロ)外国人研究者の招致、(ハ)研究成果の国際的交換、②研究施設の拡充では、(イ)招致または来訪外国人学者のための施設、(ロ)図書及び研究資料の拡充、(ハ)高度に専門的な研究成果の刊行助成、(ニ)隣接敷地の買収並びに戦災寄宿舎の復興、(ホ)その他今後の発展を期するための諸施設の拡充等々がそれです。

因みに、一番最近の平成27年度の事業報告書を見てみましょう。後援会の事業は、教員の海外派遣支援が1千2百万円強、学術成果公開支援が450万円強で、研究支援やシンポジウム開催支援などが700万円強となっています。更に、当初予定の事業に加えて、学部学生と大学院学生のための教育支援も8

00万円強に及びます。これらの他、六甲台後援会創立50周年記念事業として実行することとなった凌霄賞や3学部学生の相互履修科目開講などにも1,350万円余を支出しています。

六甲台後援会は当初、教員自体の研究教育中心の事業で学生諸君については、間接的な支援事業であったのに対して、近年ではこういう形で学生諸君への直接的な支援事業にも配慮されるようになっていくことが判ります。

六甲台後援会には、以上の他に、官立神戸高等商業学校以来、明治42年から昭和43年まで、神戸高等商業学校・神戸商業大学・神戸大学で英語教員として教鞭を執られたロイ・スミス先生のお名前を付したロイ・スミス館（昭和35年購入・土地面積1、695㎡、建物面積763㎡）があり、外国人研究者の宿泊や六甲台後援会事務局その他として活用しています。その運営維持費に960万円くらいを充てています。

この近年、いわゆる世界経済も長期停滞の影響を受け、バブル崩壊後のわが国経済も停滞している中で、最初に触れましたように文科省は選択と集中の方針の下に、国立大学に対する運営費交付金を毎年削減し、各大学に外部資金の拡充を呼びかけています。こういう状況下でわが神戸大学がこれから発展するために、社会科学系5部局はいうまでもなく、すべての学部・大学院の協力を得て、日本と世界の経済社会の安定的発展に寄与できると評価されるような研究・教育の優れたプロジェクトを考案し、外部資金の獲得を可能にすることに真剣に努めなければなりません。外部資金を大きくしようとすれば、旧帝大が実現しているように何としても大規模な実効性のあるプロジェ

クトを樹立して行くことが必要です。

それを補足する試みとして、卒業生全員の母校愛を基本にした募金活動の活性化も不可欠です。

しかし、先述した財団法人六甲台後援会の創設からも判りますように、凌霜会は当時の校長であった水島鍊也先生を中心とする教職員の家族主義的と言つてよい学生諸君との親密な人間的交流と教育の中から生まれ育てられたものでした。従つて、旧制の神戸商業大学や神戸経済大学の卒業生の皆さんにとつては母校の現状や先き行きについての危機意識も強く少しでもこの危機克服に役立てようという思いが強くなっていました。

先ほども申しましたように、いますべての国立大学は深刻な危機に直面し、この危機打開に迫られています。しかし、母校に対する愛情と支援意識とは、やはり、学問的だけでなく、人間的にも大きな指導と感動を与えて頂いた教職員、特に先生方への報恩の気持ちから生まれてくるものです。その意味では、大学の危機というより、どうしても、自分の学んだ学部とそこで教えて頂いた先生方への敬愛の念と結びつくものです。そのため、卒業生からの個人的な醸金はどうしても大学全体というより自分の勉強した学部中心になりがちです。ただ、考えてみると、神戸大学でも新制大学が成立し、その各学部の卒業生が生まれてからでも64年も経ちました。それぞれの学部・研究科での母校愛も以前より強固になっていると言つて間違いありません。

それを考えると、かつて凌霜会員が強い危機感から六甲台後援会を設立したのと同じように、この際各学部同窓会も力強く

立ち上がつて、既に法人化しておられるところもありますが、それぞれの学部の危機を克服する基金づくりにも努めることが望まれるのではないのでしょうか。

もつとも、こうした試みによる基金集めは、税制も異なり一大学で日本円にして3兆円もの基金を樹立している大学まである米国とは違って、いまの日本では、簡単ではありません。さらに、こうした試みは、日本のすべての大学が真剣に努めていることで、これだけで大学間競争で優位に立つことは難しいことは自覚しておかねばなりません。

今回この欄を特に読んで頂きたいと念じた新入生の皆さん、今年も先輩諸氏による「凌霜寄附講義」が開講されます。ここでは、私たち神戸大学の前身、神戸高等商業学校の初代校長だった水島鍊也先生の理念から始まる凌霜の歴史の説明や、現在企業で幹部として活躍している卒業生によるそれぞれの業界の現状や課題に関する講義が行われます。これは、凌霜人の団結と絆を理解して頂き、これからの皆さんの素晴らしい人生を築き上げるうえでも、きつと大いに役立つと確信します。是非ご期待ください。

最後になりましたが、改めて、皆さんのご入学をお祝いします。素晴らしい大学生活を享受してください。

今回も皆さんからのご寄附ありがとうございます

前号で報告させて頂いた後も、本号締切日までに左記のとおり多くの皆さんから貴重なご寄附を頂きました。

古林博様（昭31法）千円、佐渡島英厚様（昭48経営）2千円、

浅野大策様(昭50経済) 3千円、奥山忠政様(昭35法)、柴田孝生様(昭55経営)、奥村禎敏様(昭55経営) から各5千円、廣田雅良様(昭36経済)、太田義人様(昭51経営)、村瀬昌宏様(昭54経営)、廣田元明様(昭54経営) から各1万円、和田愼三様(昭28)、丸澤武様(昭61経営)、池永滉様(昭37経営)、杉本信様(昭31経営)、丹羽徹様(昭38経営) から各2万円、東田正夫様(昭44経営)、楠晴夫様(昭34経済)、高松牧人様(昭51経済)、米川毅様(昭35経営) から各3万円、鬼界政弘様(昭56経済)、大野義也様(昭37経済)、水島昇様(昭51法)、有馬誠様(昭41経営)、渡会武嗣様(昭30経営) から各5万円、木村正則様(昭50経済)、松岡三郎様(昭35経済)、匿名希望様(昭45法)、稲垣滋様(昭45経済)、広瀬隆明様(昭52経営)、寺井洋一様(昭34経営) から各10万円、井村達男様(昭37経営) 20万円、加護野忠男様(昭47経営修) 100万円。

加えて、毎年、社会科学系4研究科及び経済経営研究所の先生方にお願ひしているご寄附についても次のとおり頂きました。

部局順に法学研究科の先生方60名の18万円、経済学研究科の先生方45名の14万2千円、経営学研究科の先生方54名の16万2千円、国際協力研究科の先生方22名の6万6千円、経済経営研究所の先生方22名の6万6千円がそれです。毎年、先生方には大変ありがとうございます。

お蔭様で、本号で合計294万7千円のご寄附をくださったことになり、平成28年度累計としては915万1千円となりました。事務局としても皆さんの厚い母校支援のお気持ちが生かされるよう先生方と一体となって運営に努めたいと思います。

今後ともどうかよろしくご協力の程お願い致します。

毎回お願い申し上げます寄附金の送り先は左記の通りです。よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合：銀行からの通知がどうしても遅くなり、領収書等のご送付が遅れる可能性がありますので、是非ご送金のことを事務局にご一報ください。

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合：通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください。

さい。

口座番号 0098019116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail: rokkodaiund@kobe-u.com